

「経験義」を表す“过”について

— 新興語法の観点から

稲垣 智恵*

はじめに

現代中国語の助詞“过”は動詞や形容詞の後ろに用い、アスペクトを表す。さらにこの助詞は完了を表す場合と、経験を表す場合とに分けることができ、先行研究では多く前者を“过1”，後者を“过2”として、その用法や意味を分析している。通時的に見ると、助詞“过”は「過ぎ去る」「超える」などを表す動詞“过”が虚化したものであり、その程度から、“过1”よりも“过2”の方が後になって現れたものと考えられる。しかしながら、これら研究では、助詞“过”を伴う動詞について、それを通時的に研究したものは少ない。筆者の分析によれば、「動作性動詞＋“过2”」の例に比べ、「状態性動詞＋“过2”」の例はかなり後の時代にならないと現れない。“过2”の用法にも更に時代的変遷があるのではないだろうか。

本稿では、状態性の動詞や形容詞を伴う“过2”の用例が近代以降多用されるようになったという仮説のもと、これらの用法と外来要素、「新興語法」の関係について述べる。

また、本項の第4章第2項及び第3項は『東アジア文化交渉学研究4号』（関西大学文化交渉学研究拠点）の投稿を一部改稿したものである。

1. 先行研究

1-1. “过”の用法

“过”には大きく分けて以下の用法がある。

- ① 動詞としての用法：時間・場所・範囲などが「超過，通過」など「過ぎる」意を表す
 “过了这条街就到了。（《八百词》¹⁾）”
 “过生日”

* 関西大学大学院文学研究科文化交渉学専攻 後期課程

1) 呂叔湘 主編（牛島徳次・菱沼透 監訳）『中国語文法用例辞典—《現代漢語八百詞増訂本》日本語版』（東方書店，2003年）

“改革开放以来我国出国留学总人数已超过100万人。(《新华网》²⁾)”

“脑子里闪过了很多想法。(《八百词》)”

② 助詞としての用法：アスペクトを表す

1. 動作の完結：“吃过饭再走。” → “过1”

2. 経歴・経験：“我吃过中国菜。” → “过2”

※ “过2”は形容詞に付加することも可能。形容詞が“过”を伴う時、一般に時間を明示することが必要である。これは“弟弟的个子高过哥哥了。”などのように、比較で用いられる「形容詞+“过”」の例とは異なる。このような比較で用いられる場合の“过”はむしろ動詞的用法である。

経験：我从来没有这么高兴过。

比較：“今年的茶還好嗎？”“舊年的茶好過今年的。”(“*DIALOGUES AND DETACHES SENTENCES IN THE CHINESE LANGUAGE*”³⁾)

これら先行研究に倣い、本稿では助詞“过”について「動作の完結を表す」用法は“过1”，「経験・経歴を表す」用法は“过2”と定義する。無標示で“过”と記す場合、特に説明しない限り“过1”“过2”の総称とする。

1-2. “过”の起源・変遷

助詞“过”は、時間・場所・範囲などが「超過，通過」など「過ぎる」の意を表す動詞“过”の虚詞化によって現れた用法と考えられる。助詞“过”を通時的に捉えた先行研究には以下のようなものがあり、その起源を唐，宋代頃とし、変遷を述べている。

太田辰夫(1958)⁴⁾：(助詞“过”の用法は)宋代にできた。

木霁弘(1989)⁵⁾：“过”の虚化は魏晉南北朝時代に始まり，宋代に成熟，明清時代に白話小説の中で普遍的に使用されるようになったのではないか。明清時代の“过”は動作の完結(“过1”)を表すほか，経験(“过2”)の用法も表す。

2) 〈改革开放以来我国出国留学总人数已超过100万人〉《新华网》(2007年02月26日付ニュース記事，2010年12月15日閲覧，http://news.xinhuanet.com/edu/2007-02/26/content_5775966.htm)

3) Robert Morrison “*DIALOGUES AND DETACHES SENTENCES IN THE CHINESE LANGUAGE* (《中文會話及凡例》)” (Honorable East India Company’s Press, 1816年) 該当箇所英訳は以下の通り。
“This year’s tea pretty good.” “Last year’s Tea was BETTER than that of this year.”

4) 太田辰夫『中国語歴史文法』(朋友書店，1981年，pp.218-219 (1958年江南書院版発行))

5) 木霁弘““过”字虚化的历史考察》《思想战线》(1989年第2期，总86期，云南人民出版社，1989年，pp.37-42)

伍和忠（2005）⁶⁾：完成、完結を表す“过1”の方が経験を表す“过2”よりも早く現れたのではないか。唐代には既に完結を表す“过1”の用例があり、経験の“过2”も稀に見られる。多くの学者は経験を表す“过2”は宋代以降徐々に成熟していったのではないかとしている。

王娇（2008）⁷⁾：“过が虚詞化し助詞になるのは唐代からである。唐代は“过”の発生時期、宋代は形成期、元代は発展期、明代は“过”の大量使用時期、清代から現代が“过”の繁栄期である。

孔令達（1997）⁸⁾：動詞“过”から動作の終結を表す“过1”へ、それから「かつてそのようなことがあった」を表す“过2”に変遷したと推測できる。というのは動詞“过”と“过1”の意味的構造が酷似しているからで、“过”の意味が空間から時間へ変わると“过”は“过1”になる。“过2”の直接の出自は“过1”であって動詞“过”ではない。

林新年（2004）⁹⁾：“过”も“了”“得”“将”“取”“着”などと同じように、連動を作る後ろの動詞→述部動詞の結果補語→動相補語→動態助詞という文法化の過程を辿った。しかし、“过”は他の助詞と比較し、その用法の発展が遅かった。“过”が付着する動詞について見ると、唐宋時代には、「動作動詞+“过”」の形式しかなく、「心理動詞+“过”」の形式はない。これが恐らく“过”の文法化を送らせた原因であろう。

伍和忠（2005）^{10) 11)}：「V+“过2”」の形式は清代になってようやく使用頻度が増えた。

6) 伍和忠〈汉语表“体”助词研究述要〉《广西师范学院学报（哲学社会科学版）》（第26卷第3期，2005年，广西师范学院，pp.104-110）

7) 王娇〈动态助词“过”的语法化过程〉《现代语文（语言研究版）》（2008年9期，曲阜师范大学，2008年，pp.34-35）

8) 孔令達「言語成分の同一性から見た助詞『过』の帰属問題」『中国語言語学情報4：テンスとアスペクト3』于康ほか編，好文出版，2001年，pp.231-246（原文：〈从语言单位的同一性看助词“过”的分合问题〉《语法研究和探索（八）》商務印書館，1997年）本稿は日本語訳文による要約。

9) 林新年〈试析唐宋时期的“过”语法化进程迟缓的原因〉《语言科学：第3卷第6期》（2004年，pp.42-50）（CNKI中国知网による）

10) 伍和忠《“尝试”、“经验”表达手段论》（社会科学文献出版社，2005年，p.215）

11) 伍和忠（2005）では、「経験義」の表現方法について以下のようにも述べている。

“曾+VP”形式自上古萌生，中古获得长足发展，至近代时期，在与“尝+VP”的竞争中立出，确立了自己的霸主地位。当新生的“V过_助”登场亮相以后，它未退出历史舞台，而是与新生的形式同台演出，这样我们便看到了“曾/曾经+V/VP过_助”这种混合的形式，可谓推陈出新。……“过_助”与“曾”同现，更凸显出整个句子所表示的“经验”意义，“过_助”的标记性也得以增强。（p.208-215）

（“曾+VP”形式は上古に芽生え，中古に大きく発展した。近代に“嘗+VP”との競争を勝ち抜き，覇権を確立した。新たな“V过₂”という用法が現れた後も，“曾+VP”の用法は廃れず，“V过₂”と共に使用されるようになった。“曾/曾经+V/VP过₂”のような混合形式は，古い形式から新たな形式が生まれたのだといってよいであろう。“过₂”が“曾”と共に起ると，文全体が表す経験義を更に浮き立たせることになり，“过₂”の標記性も強化される。）（筆者要約・翻訳）

(下線, 要約, 括弧内筆者)

林新年(2004)では“了”“却”“著”などと比較して“过”の虚詞化が遅れた原因の1つが、「唐宋代には『動作動詞+“过”』の用例しか見られず、『心理動詞+“过”』の例が見られないこと」であり、「唐宋代の『V+“过”』は“通”“潜”“逃”“走”“穿”“透”“吞”“飞”“来”など、移動の意味を表す動詞のような決まった少量の動詞としか結びつかない」としているが(筆者翻訳・要約), 唐宋以降の変遷については述べられていない。また, 伍和忠(2005)では, 《红楼梦》《老残游记》《骆驼祥子》《围城》を用い, 「“曾”+VP」「V+“过2”」「“曾”+V/VP“过2”」の3つの「経験」を表す形式の出現数・パーセンテージについて調査している。そしてその結果, 「V+“过2”」の形式は清代になって増加し, 清代から現在までにおける経験を表す主な形式となり, また, 「“曾”+V/VP“过2”」の用例も大幅に増えたとしている¹²⁾。以下表を引用する。

作品	“曾”+VP	V+“过2”	“曾”+V/VP“过2”	合計
《红楼梦》	62	33	46	141
《老残游记》	3	15	3	21
《骆驼祥子》	2	29	6	37
《围城》	8	89	3	100
総計 / パーセンテージ	75 / 25.2	166 / 55.5	58 / 19.3	299 / 100

伍和忠(2005)に取り上げられている上記4作品のうち, 《红楼梦》を除いて他三作品は全て20世紀以降のものである¹³⁾。それを踏まえてこの結果を見てみると, 「『V+“过2”』が経験を表す主な形式となった」のは, 20世紀以降と考えてよいだろう。

また, これら先行研究では, 状態性動詞と結びついた“过”の用法がいつ頃現れたかについては述べられていない。

1-3. “过1”と“过2”の差異

“过1”と“过2”の差異については, 以前から多く議論されてきた。認知言語学的には, 三宅(1999)¹⁴⁾, 朴鐘漢(2000)¹⁵⁾らによって指摘されているように, 両者は意味的連続性を持

12) 同書p.215

13) 伍和忠(2005)はこれらの作品について細かくは述べていないが, 《老残游记》は樽本照雄 編『新編増補清末民初小説目録』(齋魯書社出版, 2002年, 1997年(日本))によれば, 最も初期の版本で1903年発表である。また, 《骆驼祥子》は1936年, 《围城》は1947年に発表されている。

14) 三宅登之「周縁的“过2”について」『中国語:11月号』(1999年, 内山書店, pp.27-32)

15) 朴鐘漢「認知文法による現代中国語多義語の研究」『中央大学論集:第21号』(遠藤雅裕訳, 2000年, 中央大学, pp.21-41)

っていると考えられるが、文章構造上では、以下のような差異があるとされる（刘月华（2001）¹⁶、吕叔湘（2003）¹⁷）。

	“过1”：動作の完結	“过2”：経験
共起	後ろに“了”を伴える。 “已经”と共起可。	後ろに“了”を伴えない。 “曾经”と共起可。 “已经”と共起不可 ¹⁸ 。
否定形式	“没（有）+V”	“没（有）+V (or adj.)+过”
結合する動詞	少ない。動作性を表す動詞にのみつけられ、以下の動詞には付けることができない。 a. 非動作動詞（“是”“像”“成为”などの関係動詞）、心理状態（“害怕”“担心”“感动”など）や態度（“赞成”“同意”“尊重”“怀疑”など）を表す動詞、認知意識を表す動詞（“认识”“明白”“懂”など）、能願動詞。 b. 具体的な1つの動作を表さない動詞。“培养”“依靠”“前进”“进行”“压迫”“侵略”“教学”“变化”“毕业”“发生”“驾驶”など。 c. 非自立的な動作を表す動詞。“吐（呕吐の意味）”“咳嗽”“丢（失）”“发现”“打雷”“上冻”、“塌”“出现”“失火”“漏”など。 d. 書面語のニュアンスが強い動詞。“踏”“埋葬”“责备”など。	多い。しかしいくらかの動作性の弱い動詞とは結合できない ¹⁹ 。

「経験」を表すとされる“过2”がいつ頃、どのように使用されたか、という問題が先行研究ではっきり述べられていない原因の1つは、“过1”と“过2”の見分けが付きにくいためであり、“过”の推移を調査した研究でも、その“过”が“过1”なのか“过2”なのかはっきり述べられていないものが多い。そこで、助詞“过”が表す時間範囲を特定しようと試みる研究も多い。また、“过1”と“过2”を分類しようとしたとき、上記のように[“了”と共起するかどうか]、[否定の形はどうか]などと言った文章全体の構造から判断することも多い。これは例えば、“吃过”とだけ提示した場合、これが「摂食行為の完結」を表すのか、それとも「過去に於いてあるものを食べた経験がある」ということを表すのか、判断がつかないためである。そこで“吃过中国菜”なら経験、“吃过饭”ならば食事をするのは恒常的な動作

16) 刘月华・潘文娉・故韡《实用现代汉语语法（增订本）》（商务印书馆，2001年，p.405）

17) 吕叔湘主編『中国語文法用例辞典—《現代漢語八百詞增訂本》日本語版』（東方書店，2003年，pp.158-160）

18) この意見に対しては、反論もある。劉綺紋（2006年，p.247）は“这样的经验，他已经受过一次了。”（茅盾《子夜》1933年）の例を挙げている。

19) しかし、動作性が極めて弱いであろうと考えられる関係動詞に関して、刘月华(2001)は“小张的妹妹以前跟他外婆家姓过王，后来改过来了。”(p.402)、趙元任(《中國話的文法》中文大學出版社，台湾學生書局，1980年，p.165，p.359)は“我從來沒是過誰的人。”の例の存在を挙げている。とはいえ、これらの例は一定の言語環境がなければ成立しない特殊な用例であろう。

なので完了，などと理解したり，“曾经看过那部电影”なら経験，“已经看过那部电影了”ならば完了と理解したりするのである。

しかし，いくらかの先行研究はまた，“过1”と“过2”が伴う動詞の差異についても言及している。刘月华（2001），吕叔湘（2003）のように，“过2”が伴う動詞の範囲が“过1”よりも広いのだとすれば，“过1”が伴わない動詞を伴った“过”は経験義を表す“过2”と理解されると考えることができる。

2. 伴う動詞に関して

2-1. 先行研究

伴う動詞から“过1”と“过2”について研究したものには，前章で述べた刘月华（2001），吕叔湘（2003）を筆頭に，以下のようなものがある。

劉綺紋（2006）²⁰では，“过”のアスペクト操作を〈終結点到達〉と〈終結点通過〉があるとした上で，共起する動詞が「動的的局面」を持つものである場合と「静的的局面」を持つもので異なる意味が生じるとしている。

動的的局面を持つ事態と共起する場合に限って，“过”は完結相機能を担うことができる。一方，静的局面（結果状態）が生じるような動的事態と共起した場合は，“过”は完結相機能を担うことができない（p. 270）

また，孔令达（1985）²¹は動詞の「反復性」に着目し，以下のように分類している。

孔令达（1985）

- A類動詞：+ “过1” + “过2”
反復の可能性をもつ，反復性動詞
看 听 吃 尝 拿 抓 抬 抱 打 爱 想 有 …… 参观 吃饭 休息 睡觉 洗练 刷牙
- B類動詞：- “过1” + “过2”
状態を表す動詞，とくに心理状態を表す動詞
感动 喜欢 佩服 爱护 同情 讨厌 恨 气 害怕 吓 害羞 满意 …… 希望 失望
- C類動詞：+ “过1” - “过2”
極少。一回性の動詞。

20) 劉綺紋『中国語のアスペクトとモダリティ』（遊文舎，2006年）

21) 孔令达〈动态助词“过”和动词的类〉《安徽师大学报（哲学社会科学版）》（1985年第三期，pp. 104-110）（CNKI中国知网による）

死

● D類動詞：－“过1”－“过2”

能願，判断，使役，認知動詞など。判断評価の性質をもった動詞。

使得 免得 认得 认知 体会 以为 觉得 变成 …… 要 可以 可能 是 象 在 ……

（筆者要約・翻訳）

孔令达（1985）は、“想过这些，他开始想些实际的。”“再说，我总算有过一辆自行车，骑过一辆属于自己的自行车了。”などの例に現れる“过”が「動作の完結」を表す“过1”だということを理由に，動作性の強弱と助詞“过1”“过2”の用法の間には直接的，決定的な作用はないとしているものの，やはり状態を表す動詞は“过1”と共起しにくいとしている点では他の先行研究と一致している。

2-2. 状態性動詞と結びつく“过”について

細かな動詞の分類は諸説あるが，先行研究ではほとんどが「状態性の強い動詞は完結を表す“过1”とは共起しにくく，“过2”と共起しやすい」としている。言い換えれば，これら動詞と結びついた“过”は動作の完結“过1”ではなく，経験義“过2”と理解されるということである。

これは例えば，“吃”，“走”，“看”などのように具体的な動作そのものを表す動詞は，その動作を行う期間が限られており，ある程度の時間で終了することが見込まれている。また，開始から終了までの変化が生じることが前提である。そのため，これらの動詞と結合した“过”は，動作の終了というプロセスを表すに過ぎない。そこでこれら動詞と“过”が結びついて経験義を表すような場合，それが完結を表すのか，経験を表すのかは文脈から判断されることがほとんどである。

しかし，“喜欢”“醉”“同情”などのような状態性の動詞は具体的な動作を表さず，これらの動詞が表す動作には明確な開始点や終了点がない。動作の開始から終了というプロセスを見込めないのである。もしこれら状態性の動詞の後に“过”を伴うと，本来動作のプロセスや変化を含まない状態を断絶し，状態に始まりと終わりという過程を作り出す。これが経験義であり，これら動詞を伴う“过”は文脈がなくとも経験義“过2”と判断される。²²⁾

22) 劉綺紋（2006）では，これを以下のように説明している。

“过”のアスペクト操作は〈終結点到達〉や〈終結点通過〉である。前者は，動的局面のみを持つ事態の終結点に到達する，という操作である。この結果「完了」を表すことになる。また後者は，事態における限界の在り方にかかわらず，その事態における最終局面の終結点を通り過ぎてしまう，という操作である。その結果，終了した時点が近い過去であれば，しばしば「完了」として解釈される。一方，終了した時点が遠い過去であったり，あるいはその終了した事態が当事者にとって何らかの特別な意義を持っていたりすると，しばしば「経験」として解釈されるのである。（p.273）

Cf. 我问过他。(完了・経験)

我喜欢过他。(必ず経験)

状態性の強い動詞は、形容詞に近い成分を持っている。このため、形容詞が“过”と結びついた時も、経験義を表していると思ふ事が可能である。このような用法をするようになったのは、紛れもなく“过1”に「終わる、過ぎる」という実義が含まれていたからであろうが、状態性動詞や形容詞は具体的な動作を表さないため、これらに付着した“过”は「具体的な動作を指し示す機能がなくなり、同類の動作をひとまとめにして指し示し、“过1”のように純粹に動作進行の状況を表さなく」²³⁾ になったのではないであろうか。

管見によれば、19世紀以前の白話小説の中で、「状態性動詞+“过”」の例は極めて稀である。「形容詞+“过”」の用例についてはほとんどないと言ってよい。香坂(1983)²⁴⁾で「旧白話において“过”はまだ経過した→終わった、という実義を保っている」と指摘されているように、近代、19世紀以前の“过”は虚詞化していたとしても、まだ動作の「完了」の意味がほとんどであり、仮にそれが「経験義」を表すと理解されても、それは文脈による所が大きかったのではないか。或いは、まだ虚化への過渡期にあり、存在や感情を表す動詞や、形容詞のように状態性が極めて強い語に付着することはなかったのではないだろうか。“过”が状態性の強い語に付着し、安定して「経験」を表す事ができるようになったのは、20世紀以降、特に五四白話運動以降のことなのではないだろうか。

2-3. 今回用いる動詞分類について

管見の限りでは、伴う動詞の性質から“过2”の変遷を辿った研究は未だ少なく、特にその変遷に外来要素の影響を提示したものは見当たらない。

本稿で“过2”の変遷に外国語の影響があった可能性を考慮に入れる理由は3つある。1つには、まず状態性動詞や形容詞は、動作性動詞と比較して“过2”を付ける必要性が低いと考えられること。例えば、“小时候我喜欢看书。”のように、過去の時間を表す語がある時、“喜欢”は必ず過去の状態であり、現在はその状態に何らかの変化が生じていることを含意しているであろう。これは“小时候我吃中国菜。”が文として安定しにくいことと比較するとその差が明らかである。そこで、例えば「好きだ」「好きだった」のように状態性動詞や形容詞を現在と過去で書き分ける言語を翻訳する際、直訳の過程でこのような“过2”の用法が拡大したのではないかと推測できる。

2つには、同じくアスペクトを表す“着”が状態性の強い動詞に付着する用法が近代以降現

23) 孔令達(1997, 2001(日本)) p.241

24) 香坂順一『白話語彙の研究』(光生館, 1983年, p.105)

れた「欧化文法」であるとする先行研究があること。²⁵⁾

3つには、“过”が状態性動詞を持つようになったと推測される時期と、外来表現が多く輸入され、白話運動が盛んになった時期が重なること。

動詞の動作性、状態性に関しては、C.E. ヤーホントフ (1987)²⁶⁾ や朱繼征 (2000)²⁷⁾ などに詳しいが、動詞は必ずしも「動作性動詞」と「状態性動詞」の2つに分けられるものではなく、語義によって強弱が異なるといった方がよい。また、一般に動作動詞と考えられる動詞も具体的な動作を表さない場合が多く、このような動詞は動作を表していても“过1”を伴わないことは注意しておく必要がある（例：“培养”“依靠”“教学”“变化”など）。これら動作動詞の動作性の強弱と経験義の関連性について、本稿では詳しく触れない。

どの動詞を「状態性動詞」として扱うかは先行研究でも揺れがある。本稿では、刘月华 (2001年, pp.152-156) の分類²⁸⁾ を基礎に、①生物の精神や心理状態を表す動詞（“想”，“喜欢”，“同意”など）②存在を表す動詞（“有”，“存在”，“在”など）③認知動詞（“知道”，“认识”，“明

25) 王力《中国语法理论（下册）》（中华书局出版社，1944年）

26) C.E. ヤーホントフ（Сергей Евгеньевич Яхонтов）著・橋本萬太郎訳『中国語動詞の研究』（白帝社，1987年）

27) 朱繼征『中国語の動相』（白帝社，2000年）

28) A) 动作动词:表示动作为。如“吃”“看”“听”“说”“试验”“辩论”“收集”等

1. 一般可以重叠
2. 一般可以带动态助词“了”、“着”、“过”
3. 可以用“不”和“没”来否定
4. 可以带表示动量、时段的词语
5. 可以构成命令句，如“来！”“走！”
6. 可以用正反疑问式提问
7. 不能受程度副词的修饰。如不能说“很吃”、“非常吃”。

B) 状态动词:表示人或动物的精神、心理和生理状态。如“爱”“想”“病”“饿”等。

1. 大多可以受程度副词的修饰，但“病”“醒”等不能受程度副词的修饰。
2. 不能构成祈使句。
3. 表示心理状态的状态动词是及物的，表示生理状态的状态动词是不及物的。

C) 关系动词:意义比较抽象。主要作用是联系主语和宾语，表示主语与宾语之间存在某种关系。大多数关系动词的宾语基本上是不可缺少的。关系动词的数目不多，主要有以下几种。

1. “是”
2. “叫”“姓”“当作”“成为”“像”“等于”此类关系动词的主要语法特征是：
 - ① 多用“不”来否定，偶尔可以用“没”来否定。
 - ② 除了“像”以外，一般不能受程度副词的修饰，不能省略宾语。
 - ③ 一般不用重叠式
 - ④ 后面一般很少用动态助词“了”“着”。
 - ⑤ 不能作“把”字句的谓语动词。
 - ⑥ 不能构成祈使句。

3. “有”

D) 能愿动词

白”など)を状態性の動詞としてとり、これら動詞を伴う助詞“过”を、“美丽”“无聊”などの形容詞を伴う例と共に調査する。

以下、注記すべき点を挙げる。

1) 名詞“过”について：

“有过则改”などの“过”は「過ち」を表す名詞なので例としてとらない。

2) 趨向動詞の扱い方：

“走”“躲”“渡”などの語は、後ろについた“过”が助詞なのか、趨向動詞なのか分かりにくい。魯迅の場合、これら動詞に“过”を伴う用法の場合、大体的場合“过”は趨向動詞として用いられているか、あるいは“V过O来”“V过O去”などの用法であることが多い。しかし、

“忽然，有一条小巷里，他看见墙壁上有一个洞，而且分明的记得：他是曾经走过这地方的。那墙壁上的洞，使他牢牢的记得。”(魯迅<表>《魯迅訳文全集(以下《訳文》)：6》1935年，p.354)

のように動詞なのか、助詞なのか分かりにくい例も多くある。このような例に関しては、その動詞が直接賓語を伴えるかどうかを判断基準にする²⁹⁾。

例えば“走”は後ろに直接賓語は伴うことができず「不及物動詞」とされ、また、“去”“来”のような不及物動詞とは異なり、“走路”“走道”など、一定の決まった範囲内で伴うことができるほかは、場所名詞も直接伴うことが難しい。この場合、“我曾经走过。”のように賓語をもたずに不及動詞として用いる例は、この“过”をアスペクト助詞であるとしてとるが、“我曾经走过你家门口。”のように目的語を伴って出てきた場合、ここでの“过”は“走”の補語成分として考え、助詞として例に取らないことにする。だが、会話などの場合、この基準が通じないこともあるので、前後の文脈も判断材料の1つとする。

3) 離合詞の扱い方：

基本的に2語の結びつきが強く、《現代汉语词典》³⁰⁾『中日大辞典』³¹⁾など辞書に離合詞として記載されているものは離合詞として処理する。だが、離合詞VO構造の場合、Oが単独で成立する場合の多くは離合詞としない。(例：“洗脸”)また、離合詞VOの時、VやOを単独で用いた時と異なる意味が出てくる場合、離合詞とする。

29) 《現代汉语動詞大辞典》(北京語言學院出版社，1994年)及び《北京大學漢語語言學研究中心語料庫》(北京大學漢語語言研究中心，http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/index.jsp) 参照。

30) 《現代汉语词典：第5版》(商務印書館，2005年)

31) 『中日大辞典：増訂第2版』(愛知大学・大修館書店，1987年)

（例：“会面”，“开口”，“开战”，“进城”）

だが、例えば“生”が「発生する」という意味で使われるのは、白話では“生病”，“生疮”“生锈”などほとんど決まった場合である。このような言葉は辞書上では離合詞だが、本稿では1語としてとった。

以上の点を踏まえ、本稿では、

- 1) “过1”は非動作性の動詞とは結びつかない。
- 2) 非動作性の動詞と結びついた助詞“过”は“过2”（経験義を表す）と認識される。

という2点を前提条件に、状態性動詞と“过2”が結びつくようになったのが20世紀以降であり、その用法変遷に外国語の影響があった可能性を探る研究の初歩として、旧白話小説、英華辞書、五四時期以降の小説などを資料に考察を加える。なお、20世紀以降の資料としては、魯迅の著作及び翻訳作品を中心に見ていく。詳細は後述する。

3. 19世紀以前

3-1. 白話小説での記述

ここでいう「白話小説」とは、「清代以前に口語体で書かれた小説」を指す。今回近代以前の資料として白話小説を用いた理由は、“过”のように時間表現と関わる語は、新聞記事のように「現在、或いはついさっき発生した」というような時間を限定するようなメディアには現れにくいといった特性を持っており³²⁾、白話小説というメディアは時間に対して比較的自由に詳細な記述が許されるからである。

今回調査に用いた白話小説は《三国演义》（明）³³⁾《西游记》（明）³⁴⁾《水浒传》（明）³⁵⁾《红楼梦》（清）³⁶⁾である。

4つの小説を比較すると、《红楼梦》《西游记》《水浒传》《三国演义》の順に助詞“过”の使用範囲が広いように思われる。特に《红楼梦》での“过”は(8)“上过”，(10)“打过”などのように他の作品ではあまり“过”と結合しない動詞も取る。更に、(14)“经验过”のような比較的動作性の弱い動詞と結びついた例も見られる。これは、他の3小説には滅多にない用例である。

しかし、結果から言うと、これら白話小説中に「状態性動詞+“过”」の例は極めて稀であった。「形容詞+“过”」の用例についてはほとんどないと言ってよい。また、以下(11)~(21)の用

32) 李凌燕〈新闻叙事中“着”、“了”、“过”的使用情况——兼谈新闻话语的主观性〉《修辞学习》（2009年第5期（总155期），复旦大学，2009年，pp.20-27）

33) 〔明〕罗贯中《三国演义》（人民文学出版社，1973年）

34) 〔明〕吴承恩《西游记》（人民文学出版社，1980年）

35) 〔明〕施耐庵，罗贯中《水浒传》（江苏古籍出版社，1989年）

36) 〔清〕曹雪芹，高鹗《红楼梦》（人民文学出版社，1979年）

例は遠過去を示し、現在に置いてその状態が続いていないことを表しているため、“过2”と理解できるが、このような場合もやはり“曾”やその他時間詞を付けることで、動作の完了を表す“过1”と使い分けをしていることが多い。

- (1) 操见过皇甫嵩、朱儁，随即引兵追袭张梁、张宝去了。(《三国演义》第1回，上，p.8)
 - (2) 少年见过关公，即下堂去了。(《三国演义》第28回，上，p.244)
 - (3) 刘贤急拨马奔走，背后张飞赶来，活捉过马，绑缚见孔明。(《三国演义》第52回，上，p.448)
 - (4) 当下又吃过了五七杯酒，却早月上来了，照见厅堂里面如同白日。(《水浒传》第9回，p.104)
 - (5) 武松笑道：“若得嫂嫂这般做主，最好。只要心口相应，却不要心头不似口头。既然如此，武二都记得嫂嫂说的话了，请饮过此杯。”(《水浒传》第24回，p.258)
 - (6) 便唤该吏商议道：“念武松那厮是个有义的汉子，把这几人招状从新做过，改作：‘武松因祭献亡兄武大，有嫂不容祭祀，因而相争。妇人将灵床推倒。救护亡兄神主，与嫂斗殴，一时杀死。次后西门庆因与本妇通奸，前来强护，因而斗殴。互相不伏，扭打至狮子桥边，以致斗杀身死。’”(《水浒传》第27回，p.197)
 - (7) 三藏道：“自你去了这半日，我已吃过了三次茶汤，两餐斋供了。他俱不曾敢慢我。但只是你还尽心竭力去寻取袈裟回来。”(《西游记》第17回，上，p.219)
 - (8) 这薛公子学名薛蟠，表字文起，性情奢侈，言语傲慢；虽也上过学，不过略识几个字，终日惟有斗鸡走马，游山玩景而已；(《红楼梦》第4回，第1卷p.48)
 - (9) 青年姊妹，经月不见，一旦相逢，自然是亲密的。一时进入房中，请安问好，都见过了。(《红楼梦》第31回，第2卷，p.377)
 - (10) 众人因问：“几更了？”人回：“二更以后了，钟打过十一下了。”(《红楼梦》第63回，第3卷，p.815)
- (下線筆者)
- (11) 关公于马上欠身答曰：“关某前曾禀过丞相。今故主在河北，不由某不急去。……”(《三国演义》第27回，上，p.235)
 - (12) 那汉道：“洒家是三代将门之后，五侯杨令公之孙，姓杨名志。流落在此关西。年纪小时，曾应过武举，做到殿司制使官。道君因盖万岁山，差一般十个制使，去太湖边搬运花石纲赴京交纳。……”(《水浒传》第12回，p.127)
 - (13) 花荣道：“兄长见得极明。来日公廨内见刘知寨时，与他说过救了他老小之事。”(《水浒传》第33回，p.357)
 - (14) 行者道：“可曾经验过么？”菩萨道：“经验过的。”(《西游记》第26回，上，p.338)
 - (15) 行者道：“你老人家自幼为僧，须曾讲过儒书，方才去演经法；文理皆通，然后受唐王

- 的恩宥；门上有那般大字，如何不认得？”（《西遊記》第36回，中，p. 460）
- (16) 只因他年幼间曾走过西天，认得道路。（《西遊記》第39回，中，p. 505）
- (17) 行者道：“不是，不是！灵山之路，我也走过几遍，那是这路途！”（《西遊記》第65回，中，p. 830）
- (18) 这里尤氏复说：“从前大夫也有说是喜的，昨日冯紫英荐了他幼时从学过的一个先生，医道很好，瞧了说不是喜，是一个大症候。昨日开了方子，吃了一剂药，今日头晕的略好些；别的仍不见大效。”（《紅樓夢》第11回，第1卷，p. 128）
- (19) 宝钗笑道：“真真膏粱纨绔之谈！你们虽是千金，原不知道这些事，但只你们也都念过书，识过字的，竟没看见过朱夫子有一篇‘不自弃’的文么？”（《紅樓夢》第56回，第2卷，p. 709）
- (20) 那茯苓霜也是宝玉外头得了的，也曾赏过许多人。——不独园内人有，连妈妈子们讨了出去给亲戚们吃，又转送人。袭人也曾给过芳官一流的人。（《紅樓夢》第61回，第3卷，p. 784）
- (21) 二姐忙说：“今儿既遇见姐姐，这一进去，凡事只凭姐姐料理。我也来的日子浅，也不曾当过家事，不明白，如何敢作主呢？这几件箱柜拿进去罢。我也没有什么东西，那也不过是二爷的。”（《紅樓夢》第68回，第3卷，p. 884）
- （下線筆者）

だが、「状態性動詞+“过”」や「形容詞+“过”」の用例が、全くないといわけではない。《紅樓夢》には“有过”の例が2例見られる³⁷⁾。

“有过”

- (22) 贾政写了，道：“这一句不好，已有过了‘口舌香’，‘娇难举’，何必又如此？这是力量不加，故又弄出这些堆砌货来搪塞。”（《紅樓夢》第78回，第3卷，p. 1029）
- (23) 他虽是有过功的人，倒底主子奴才的名分，也要存点体统才好。（《紅樓夢》第88回，第3卷，p. 1154）

37) また，《紅樓夢》には以下のような例が見られる。

姑娘，你侄儿虽说年轻，却是他敬我，我敬他，从来没有红过脸儿。就是一家子的长辈同辈之中，除了婶子不用说了，别人也从无不疼我的，也从无不和我好的。（《紅樓夢》第11回，第1卷，p. 130）
この用法は一見形容詞“红”と助詞“过2”が結合した形にも思えるが，實際は離合動詞“红脸”に「V + “过2” + O」として用いられているものである。

似た用例は不肖生（向愴然）《留東外史》にも見られる。

要说她是害羞，却又不是。她也一般的和人应酬，从没见过她红过脸，露出点羞涩样子。

この2つを除いて，“红”が動詞的に常用されている例は管見の限り近代以前に見当たらないため，これらは“红脸”という単語がなければ成立しない用例と考えてよいだろう。

(下線筆者)

《红楼梦》に見られるこうした若干の「状態性動詞+“过”」の例は、先行研究で述べられている「『V+“过”』の例は清代以降増加した」³⁸⁾という点と一致する。今回状態性動詞として例にとった動詞だけでなく、“经验”などのような動作性の弱い動詞を使用できるようになったのは清代以降のことと考えてよい。

では、「状態性動詞+“过”」の例は清代には頻出していたのであろうか。そこで、上記した《红楼梦》の他に清代の文献を調査したところ、《红楼梦》に見られた“有过”の他に、“想过”の例もいくらか見受けられた。

“想过”

- (24) 急得钱小姐烧香拜佛，问卜求医，没有一件法儿没有想过，那里有什么用处？不上半个月，把一个王芝字又送到阎王家去了。(《九尾龟》)
- (25) 芬臣让他到巡捕处坐下，悄悄说道：“卑职再三想过，我们倒底说不上去；无奈去找了小跟班祁福，祁福是天天在身边的……(《二十年目睹之怪现状》)
- (26) 飞熊道：“我也想过，除非把福建一省人都绑去砍掉，才得铲除。(《野叟曝言》)

(下線筆者)

しかし、“有”“想”以外の状態性動詞を伴う“过”の例は管見の限りほとんど見当たらないことから、清代以前においては「状態性動詞+“过”」の用法はかなり限定的なものであったと考えるのが自然ではないだろうか。

3-2. 外国語との関係(1):英語

それでは、清代に「経験義」は外国語との関係上如何に表されていたのであろうか。張秀(1957)³⁹⁾では、「英語の動詞には『アスペクト』という文法範疇は存在せず」、「完了や経験等の意味は前後の文及び動詞の語彙的意味に制約されるのであって、文法範疇ではない」としており、中国語の完了義や経験義はどちらも過去形や「“have”+過去分詞」を用いて表し、意味の差異は“never”，“often”，“once”などの副詞と共に起るかどうかなど、文脈で理解するとしている。それを踏まえて19世紀の中国語教科書を見てみると、助詞“过”を使用した表現には以下のように訳文がつけられている。

38) 伍和忠(2005)

39) 張秀「中国語動詞の『アスペクト』と『テンス』の体系」『中国語言語学情報2:テンスとアスペクトI』(于康・張勤編, 中川祐三・張勤訳, 好文出版, 2001年, pp.1-38(原文:〈汉语动词的“体”和“时制”系统〉《语法论集》第2集, 中华书局, 1957年))

- (27) O, Ch'hang, the Yu-she. — My good friend, have you visited him yet?
 哦。張御史。賢契可曾拜過。
 哦 O. 張 Ch'hang 御史 the Yu-she. 賢契 my worthy friend 可曾 have you yet 拜過 visited him.,
 (“Dialogues and Detached Sentences in the CHINESE LANGUAGE”⁴⁰ p. 27)
- (28) 這一類現成的飯、何足掛齒、況且你的甚麼東西我沒吃過啊。
 What is there worth speaking of in this one ordinary meal? especially as there is nothing of yours of which I have not eaten. (《官話類編》⁴¹ 第169課, p. 571)
- (29) 先生到過南京沒有、答 我已經去過數次。
 Have you ever been at Nanjing, sir? Ans. I have been there several times.
 (《官話類編》第108課, p. 300)
 (下線筆者)

これらの例では「V + “过”」の対訳にいずれも「“have” + 過去分詞」形が用いられている。なお、これらの資料の中でも“过”が状態性の動詞と結びついた例は稀である。また、(29)のように⁴²英語の中では現在完了形と“ever”, “several”などの副詞が共起しているが、中国語では完了を表す標示であるとされる“已经”が出現している例もある。

英華辞書では、“曾”, “已经”, “未”などの副詞を用いて英語の現在完了形を解釈している。

- (30) HAVE not, I, 我未有
HAVE done it, 已經做 ; 做過 ; 做了
 HAVING seen, 既見 ; 曾見 ; 已見
 “AN ENGLISH AND CHINESE VOCABULARY IN THE COURT DIALECT (《英華韻府歷階》)” (1844)⁴³

40) Robert Morrison “DIALOGUES AND DETACHED SENTENCES IN THE CHINESE LANGUAGE (《中文會話及凡例》)” (Macao, Honorable East India Company’s Press, 1816年)

41) C.W. Mateer “A course of Mandarin lessons, based on idiom. (《官話類編》)” (Shanghai, American Presbyterian Mission Press., 1906年 (初版1892年))

42) 当時の欧米人による文法書では“过”を動詞からの派生接辞とし、過去標示であるとしている。The suffixes may be compared to derivative verbs. …… Past time, 過 kwo ‘, 對過 tui ‘ kwo ‘, I have compared them. (Joseph Edkins “A grammar of the Chinese colloquial language, commonly called the Mandarin dialect” Shanghai, LONDON MISSION PRESS, 1857, pp.181-182)

43) S.W. Williams (維三畏鑒定) “AN ENGLISH AND CHINESE VOCABULARY IN THE COURT DIALECT (《英華韻府歷階》)” (Macao, PRINTED AT THE OFFICE OF THE CHINESE REPOSIRORY (香山書院梓行), 1844年, p.133)

- (31) ……I have obtained a degree, 我已經進學 ; I have heard it said, 我聽人說 ;
have you been to Peking or not ? 你到過北京沒有 I have been there, 我到過 ;
 ……have you dined, 你用過飯麼
 “ENGLISH AND CHINESE DICTIONARY” (1847)⁴⁴⁾

広東語系統の辞書でも、同じく「V + “过”」或いは“曾”を用いた文の対訳にいずれも「“have” + 過去分詞」形の文を用いている。

- (32) 你去邊處來 Where have you been ? 我去過書館 I have been at school. (《字典集成》⁴⁵⁾ p. 37)
- (33) ……I have been there, 我曾去彼, 我去過個處, 我業經到彼 ; let me have, 俾過我 ; can you let me have? 你俾得過我有呢 ; let him have his desert, 俾佢照佢嘅行為, 依其行為與 ; do well and have well, 行善則得善報 ; I have it from him, 係佢俾過我, 他傳之於我 ; to have a thing be heart, 背過 ; …… ; have not yet, 未曾 ; have me excused, 推辭我 ; …… ; have you dined? 你食過飯冇呢, 你食飯唔曾, 你用過飯麼 ; have you been to Canton? 你到過省城冇呢, 爾曾到廣州否 ; …… ; have heard, 曾聞, 也曾聽聞 ; ……
 “AN ENGLISH AND CHINESE DICTIONARY” (1883)⁴⁶⁾
 (下線筆者)

以上のことから、次の2点が指摘できる。

- 1) 当時、英語の現在完了形と中国語の「V + “过”」は対応されることが多かったが、これら資料の中にもやはり状態性動詞と結びついた「V + “过”」の例は少なく、さらに“曾”、“已经”、“未”などの副詞と共起することが多い。ここでの“过2”が現在と同じく安定して経験義を表しているとは言い切れない。
 - 2) 1) のことから、この段階で英語の構造が中国語の「V + “过”」の構造に何らかの影響を与えたとは言えない。
- ここまでの調査で、中国語の「V + “过”」が外国語（英語）と接触した際何らかの変化が

44) W.H.Medhurst “ENGLISH AND CHINESE DICTIONARY” (Shanghai, Printed at The Mission press., 1847年)

45) Kwong Ki Chiu (鄭其照) “AN ENGLISH AND CHINESE DICTIONARY COMPILED FROM DIFFERENT AUTHORS AND ENLARGED BY THE ADDITION OF THE LAST FOUR PARTS. (《字典集成》)” (Hongkong, THE CHINESE PRINTING AND PUBLISHING COMPANY, 1875年)

46) W. LOBSCHIED “AN ENGLISH AND CHINESE DICTIONARY” (羅不存德原著, 井上哲次郎訂増, 『訂増英華字典』藤本氏藏版) (TOKYO PUBLISHED BY IFUJIMOTO, 1883年, pp.580-581)

発生したかどうかはまだはっきりさせることができなかった。しかし清代の“过”もやはり状態性動詞と結合することは少ないということは、19世紀の“过2”の用法は現在と完全に同じというわけではなく、その「経験義」は比較的弱かったのだと推測できる。

3-3. 外国語との関係(2): 日本語

本項では、日本語の側から近代中国語における“过”について見ていく。中国語の“过”の変遷とは直接関係がないため、余論としてもよいが、4章で魯迅の“过”と翻訳の関係について述べる際関係してくるのでここに記す。

現在日本で発刊されている辞書や教科書をめくってみると、助詞“过2”は、「～タコトガアル」の形で訳出されることが多いようである。

「ことがある」は、動詞の過去形について、経験があるということを表す。……「ことがある」は、「したことがある」「していたことがある」という形で主語にそうした経験があることを表す。……「以前」「かつて」「1度」のような副詞的成分と共起する。ただし、ごく近い過去や厳密な過去の時点を示す副詞的成分とは共起しにくい。……「したことがある」は、1度ないしひとまとまりの経験を意味するが、「していたことがある」は、1度の経験の場合と反復的な経験の場合とがある。

(日本語記述文法研究会『現代日本語文法：3』(くろしお出版, 2007年) pp.59-60) (筆者要約)

これは過去標示「～タ」、形式名詞「コト」、所有を表す動詞「アル」からなる形式だと考えられる。日本語の経験を表す形は、中国語のように「経験相」という形で文法化されてはいない。

現在日本語は一般に「タ」或いは「テイタ」形を用い過去を表す⁴⁷⁾。しかし、これは近代以降翻訳の影響で現れた形だとし、日本語には元々過去形がないとする意見もある。

日本文の終わりを「た」で止める文体は、蘭学者たちの翻訳から始まっていた。それは、オランダ語文の動詞の過去形、現在完了形を、「～た」と訳することがあったからである。……この翻訳法は、近代になって、英学に引き継がれた。もっとも、オランダ語訳でも英語訳でも、過去形に「た」を用いるのは少数例で、日本語訳での過去形としては、「し」、「けり」、「たり」などを使うのがふつうだった。……「た」じたいは、とくに話し言葉では現在形でも過去形でもなかった。西洋語の完了形とも違う。……この無理な当てはめの

47) 町田健『日本語の時制とアスペクト』アルク, 1989年, p.71

理由は、近代以後の翻訳の要請であった。……英文の現在完了形に対しては「た」を使っている例も少数見受けられるが、少なくとも明治三十年代頃までは「し」が普通だった。……ところが、明治三十年代頃になると、おそらく二葉亭などから始まった小説文の影響かと思われるが、過去形に「た」を宛てるようになる。

(柳父章『近代日本語の思想:翻訳文体成立事情』法政大学出版局, 2004年, pp.81-97) (筆者要約)

日本の言文一致運動は明治初期(1868年～)から行われ、40年代以降(1907年～)確立したとされているが、タ止めの形が新しい形とすれば、この頃変遷し、確立したと考えてよいだろう。日本語の経験を表す「～タコトガアル」形は、「タ」が過去形の標示と認識されるようになってから生まれた形と考えるのが妥当である。なぜならば、「～コトガアル」が「～タコトガアル」の形を取らない場合、経験を表さないからである⁴⁸⁾。とすると、「～タコトガアル」の形も発生は明治以降、翻訳の影響である可能性は大いにある⁴⁹⁾。この点に関しては今後研究が必要であるが、その可能性を踏まえながら、今回は、当時中国語の“过”は如何に日本語に訳出されていたか見ていこう。

明治15(1882)年に出版された『総譯亞細亞言語集 支那官話部』⁵⁰⁾では“过”は“过”を使わない文と同じくほとんど「～タ」「～マス」の形で訳出している⁵¹⁾。(36)のような現在日本語では「～タコトガアル」形で訳した方が自然と思われる例も「～タ」「～マス」形で表している。また、(37)～(40)のように「没」+V+“过”の例には「～タ」「～マス」形の他に「～

48) 藤森弘子「談話における『コトガアル』の意味と用法」『留学生日本語教育センター論集:22』(東京外国語大学, 2000年, pp.33-47) 藤森(2000)では、「～ルコトガアル」を可能性の頻度を表すとしている。

49) 『日本国語大辞典:第二版』(小学館, 2001年, 第5巻, p.901)では「コト」について以下のようにある。

②修飾語句を受けて断定を強めたり、慣用的な表現に用いたりする。……○口場合、経験、必要などの意。特に、近代では、この形による表現の幅が狭くなって、一定の類型と一定の表現意図が結びつくようになってきている。たとえば、……「…したことがある(ない)(経験)」……*開化のはなし(1879)〈辻弘想〉初・二回「近日の御政事は、私共の青年間(わかいとき)には見た的(コト)も開た的(コト)も無い事(コト)ばかり」

柳父(2004)によれば過去形に「タ」が用いられるようになったのは明治30年代であり、ここで「～タコトガアル(ナイ)」の初出として上がっている例は、これより早い例ではあるが、本稿ではこれらの例が明治初年前後(1868年前後)から行われ、40年代以降(1907年～)安定したと考えたい。

また、早稲田大学古典籍データベース

(http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/html/wo01/wo01_03483/index.html) 公開のデータには、曲肱軒主人という著者が『開化のはなし』上下巻を記しており、この巻の下「第二回 田畝間の政治論」(p.1-a)に該当箇所がある。

50) 広部精訳、青山清吉蔵版、関西大学近代漢語文献データベースによる

51) “了”の文章も以下のように訳出している。

●他們來了多少人 他共は幾人來マシタカ (第一巻上, 散語第二章, p.2-b)

●驢驃子他買了多少頭 驢馬ト驛馬ヲ彼ハ幾匹買マシタカ (第一巻上, 散語第四章, p.5-a)

タコトガアル（ナイ）」形もある。これらの例は原文の文脈から見ても経験と理解してよい。これは原文が副詞“从来”を使用していることとも関係するのかもしれないが、“从来”を用いていない(40)のような例も「～タコトガアル（ナイ）」形で訳出しているため、それだけが原因とは言えないだろう⁵²⁾。或いは、日本語の「～タ」「～マス」形や「～タコトガアル」形も過渡期にあり、翻訳するにも過去と経験の使い分けをしていないのかもしれないが、管見の限り肯定形の「V + “过”」は「～タコトガアル」形を用いていないことから、何らかの使い分けがあった可能性はある。

「～タ」「～マス」形で訳出：

- (29) ●你看见过没有 汝ハ見マシタカ●你還沒看見過麼 汝ハ還見マセンカ●看過了 見マシタ（卷一上，散語第五章，p.5-b）
- (30) ●我請過先生教我。他不肯來 私ハ先生ニ御願モウシテ替古イタソウトシマシタガ。アノ人ハ來テ呉マセン（以下略）（卷一上，散語第五章，p.6-b）
- (31) ●字還認得認過四五千字 字ハ識テ居マストモ。識テ居ルノハ四五千字モ有リマシヤウ（卷一上，散語第六章，p.7-b）
- (32) ●念過的書千萬不可忘了 汝ノ讀タ書物ハ決シテ御忘レナサルナ（卷一上，散語第六章，p.7-b）
- (33) ●你們倆是在那兒遇見的●オマヘタチ兩人ハ何處デ出遇タノカ●是在上海會過的●ヘー、上海デ逢タノデス（卷三，問答第四章，p.11-b）
- (34) ●這個字我還沒看見過呢 此字ハ私ハマダ見マセンヨ（卷一上，散語第五章，p.6-a）
- (35) ●這四五年來你都沒見過罷●コノ四五年來你ハ遇見マセンダロウ（卷三，問答第五章，p.17-b）
- (36) ●就是了、我到了店裏頭、叫他們弄甚麼菜好呢●左様カ、私ガ宿屋ノ内ヘ到タラバ、彼等ニ云ヒ付ケテ、何ノ菜ヲ拵エサセルノガ好カ●老爺怕沒吃過我們的菜罷●旦那ハ怕クハ私共ノ菜ヲ吃マスマイ●沒吃過呢●吃マセンヨ●阿、老爺還沒吃過、不如從天津做一點兒好拿的蔡帶着●アー、旦那ハマダ吃マセンカ、ソレナラバ天津カラ持好菜ヲ少シ拵ヘテ持テユクガ善ゴザリマス（卷三，問答第八章，p.35-b）

「～タコトガアル（ナイ）」形で訳出：

- (37) ●乍見是一見之初。乍見某人是平素沒見過的人。初次見他 乍見トハ一タビ見タ始メノコトデス○某ニ初メテ遇フトハ、平素見タコトノ無キ人ニ、初メテ他ニ遇フト

52) 更に『總譯亞細亞言語集 支那官話部』には以下のような例もある。●你找過先生沒有 汝ハ先生ヲ見付出シカシタカ●找過了 見付出シマシタ（卷一上，散語第五章，p.6-a）

デス〔他ハ、始メテ遇フタ人ヲ指スナリ〕（巻一下，散語第二十七章，p.8）

- (38) ●我是南邊來的。從來沒做過車。那趕車的到店裏。立刻就要錢。我疑惑從來沒這個理。叫他等一等兒再來 私ハ南辺カラ來タモノダカラ、從來車ニ乗タコトハ有リマセンガ、那ノ趕車ハ店裏ヘ到ト、立刻ニ錢ヲ要ウト致シマシタ、私ハ從來此様理ハ無イコトト疑惑マシタカラ、彼ニ少シ待テ後ニ再來ト云ヒマシタ（巻一下，散語第二十九章，p.10—b）
- (39) ●我從來沒見過他●私ハ元ヨリ彼ヲ見タコトハ有リマセン（巻二上，續散語第二章，p.3—a）
- (40) ●沒受過酸甜苦辣●難儀ヲ知ラヌ○酸イモ甘イモ苦モ辛モ受ケタコトノ無キ人ヲ云フ（巻二上，續散語第十二章，p.18—a）

以上，当時の中国と日本語を対比させると次のことが推測できる。

- 1) 当時助詞“过”はほとんど「～タ」「～マス」形で訳出された。
 - 2) 「“没”+V+“过”」形は「～タ」「～マス」形の他，「～タコトガアル」形にも翻訳された。
- 3章で見てきた19世紀以前の例には，“有”“想”のような動詞が若干見られる以外，「状態性動詞+“过”」「形容詞+“过”」の例は見られなかった。次章では，魯迅の作品を例に，20世紀以降の「V+“过”」の例とその変遷，そして外国語との関係を見ていく。

4. 20世紀以降：魯迅の例を中心に

4-1. 1930年代の用例

現在，“过2”は“爱”，“喜欢”，“同意”など状態性の比較的強い動詞とも結合することができるが⁵³⁾，1933年に出版された茅盾の《子夜》⁵⁴⁾には既に“感到”“怕”など，19世紀以前には“曾”など副詞と結びついても成立しにくかった心理状態を表す動詞に“过”をつけた例を見ることができる。

- (41) “不是！請三先生明白，我好像没有怕过什么！我可以老老实实告訴三先生：我很爱惜我一个月来放在厂里的一番心血，我不愿意自己亲手推翻一个月来辛辛苦苦的布置！可是三先生是老板，爱怎么办，杈柄在三先生！我只請三先生立刻准我辞职！我再說一句，我并不是害怕！”（12，p.367）
- (42) 她侍侍老太爷十年之久，也不曾感到过这样温暖的撫爱。（17，p.520）
（下線筆者）

53) 《北京大学汉语语言学研究中心语料库》（2010.7.23閲覧）

54) 茅盾《子夜》（1933年）（人民文学出版社，1977年（1960年北京第3版））

同時期、茅盾以外の文章にも以下のような例が見られる。

- (43) 第四时期，即清初以后，“田、王，征辽、方腊三传皆被删去，前传亦被删去七十一回以后的事迹，加了卢俊义的一梦，变作现行的七十回本。这种变化，完全是独出心裁。他虽假托古本，这个古本却似并未存在过”。

（胡適《百二十回本〈忠义水浒传〉序》（1929）⁵⁵⁾）

（下線筆者）

これらのことから，“过”が状態性動詞を伴うようになり，安定して経験義を表す事ができるようになったのは，19世紀末から1930年代までの間ではないかと見当がつけられる。

4-2. 魯迅の用法について（1：資料・方法）

では，19世紀末から1930年代の間に“过”の用法は如何に変遷したのであろうか。今回は魯迅の作品から，同時代における“过”の変遷及び外国語との関係を検討したい。

魯迅の資料を使用する理由は，以下の2点。

- 1) 魯迅が活躍した年代が，今回「状態性動詞+“过”」が使用されるようになったと予測する時代が一致するため。
- 2) 魯迅は著作と共に翻訳作品も多く残しており，著作と翻訳における“过”の使用状況を比較することができるため。

今回用いる資料は以下の通り。

- 1) 《鲁迅全集》1-8卷（全16卷）（人民文学出版社，1981年）

第1卷（〈坟〉，〈热风〉，〈呐喊〉） / 第2卷（〈彷徨〉，〈野草〉，〈朝花夕拾〉，〈故事新编〉） / 第3卷（〈华盖集〉，〈华盖集续篇〉，〈而已集〉） / 第4卷（〈三闲集〉，〈二心集〉，〈南腔北调集〉） / 第5卷（〈伪自由书〉，〈准风月谈〉，〈花边文学〉） / 第6卷（〈且介亭杂文〉，〈且介亭杂文二集〉，〈且介亭杂文末编〉） / 第7卷（〈集外集〉，〈集外集拾遗〉） / 第8卷（〈集外集拾遗补编〉）

- 2) 《鲁迅译文全集》1-8（全8卷）（福建教育出版社，2008年）

第1卷（〈月界旅行〉，〈地底旅行〉，〈域外小说集〉，〈工人绥惠略夫〉，〈现代小说译丛〉，〈一个青年的梦〉，〈爱罗先珂童话集〉） / 第2卷（〈现代日本小说集〉，〈桃色的云〉⁵⁶⁾，〈苦闷的象征〉，〈出了象牙之塔〉） / 第3卷（〈小约翰〉，〈思想・山水・人物〉，〈近代美术史潮论〉） / 第4卷（〈壁下译丛〉，〈现代新兴文学的诸问题〉，〈艺术论〉，〈文艺与批评〉） / 第5卷（〈小彼得〉，〈文艺政策〉，〈艺术论〉，〈毁灭〉） / 第6卷（〈竖琴〉，〈十

55) 胡適〈百二十回本《忠义水浒传》序〉《胡适全集》第3卷，安徽教育出版社，2003年，p.445（原文（1929）李玄伯（宗桐）の《读〈水浒〉记》（1925）第1節を引用）。

56) 資料欠。

月), 〈一天的工作〉, 〈表〉, 〈俄罗斯的童话〉) / 第7卷 (〈死魂灵〉, 〈坏孩子和别的奇闻〉, 〈药用植物〉, 〈山民牧唱〉) / 第8卷 (〈译文补编〉)

これら資料を用い, 次の通り分析を行う。

1) 目的:

助詞“过”が伴う動詞・形容詞を分析し, その中から状態性動詞・形容詞を伴う例を抽出し重点的に見ることで, 魯迅の著作・訳文に用いられる助詞“过”の用法が如何に変遷したか探る。また, 著作物と訳文とでの“过”の用法を比較することで, 用法に差異はないか分析し, 「状態性動詞+“过”」「形容詞+“过”」と外国語との関係を検討する。

2) 予想:

魯迅の訳文における助詞“过”と著作物における助詞“过”の用法を比較すると, 訳文の方が早い時期に「状態性動詞+“过”」や「形容詞+“过”」を用いているのではないか。或いは, 多様な状態性動詞を用いているのではないか。外国語が魯迅自身の著作物, ひいては現代中国語の助詞“过”の用法に影響を与えた可能性があるのではないか。

3) 用法の扱い方:

魯迅が生前残した作品を, 本人による著作と翻訳に分け, それぞれ助詞“过”を伴う例を抽出する。用法に関しては, 《实用现代汉语语法(増訂本)》「6.结果意义(四):表示“完结”。这样用的“过”与“了”的意义很接近, 但是有一个前提:“过”前的动词所标示的动作及所涉及的物体, 对听话人来说一定是已知信息。」(pp.560-562)及び同書pp.399-406に沿う。

また, 今回の分析の重点は助詞“过”の分類をすることではなく, 助詞“过”が伴う動詞・形容詞を分析することにあるので, “过1”“过2”として分けて用法を取るのではなく, 共に助詞“过”として用法を扱う。

以上, 動詞分類に関しては, 詳しくは2-3を参照されたい。

4-3. 魯迅の用法(2:結果)

資料に用いた作品の数と, 資料中に見られる助詞“过”の数は以下の通りであった。

表 1

	作品数			助詞“过”の用例数		
	著作総数	訳文総数	作品総数	著作中総数	訳文中総数	作品中総数
1898	2	0	2	0	0	0
1900	2	0	2	0	0	0

1901	4	0	4	0	0	0
1902	1	0	1	0	0	0
1903	2	5	7	0	27	27
1905	0	1	1	0	0	0
1907	4	1	5	0	0	0
1908	1	1	2	0	0	0
1909	1	3	4	0	0	0
1912	6	0	6	0	0	0
1913	1	3	4	0	0	0
1914	1	1	2	0	0	0
1915	1	1	2	0	0	0
1916	1	0	1	0	0	0
1917	4	0	4	0	0	0
1918	16	1	17	19	0	19
1919	22	1	23	23	0	23
1920	4	3	7	21	7	28
1921	8	21	29	40	85	125
1922	20	9	29	35	77	113
1923	3	10	13	2	58	60
1924	29	3	32	52	106	156
1925	101	20	121	196	14	210
1926	57	11	68	150	19	169
1927	57	3	60	122	7	129
1928	33	53	86	29	226	256
1929	27	40	67	51	164	215
1930	22	10	32	20	53	73
1931	49	7	56	38	94	132
1932	30	3	33	27	13	40
1933	178	10	188	169	57	226
1934	122	12	134	132	56	188
1935	72	9	81	129	242	371
1936	47	2	49	75	41	116
1937	1	0	1	0	0	0
1938	0	7	7	0	65	65
合計	929	251	1180	1330	1411	2741

魯迅の著作は1898年、訳文は1903年から資料があるが、記述形式が文語であったこともあって、当初は助詞“过”の用例が見られない。実際に用例が見えるのは、訳文では周回小説の形式をとった1903年《月界旅行》以降、著作では1918年5月の《狂人日記》以降である。全体的

に年を経過するごとに増えているが、用例数の増加はむしろ作品の数や長さによって左右されることが多い。

著作と訳文では、作品数に大きな違いがあるが、これは作品ひとつあたりの長短とも関わっている。資料の総量としてはほぼ同じ量を用いており、結果、助詞“过”の使用数は著作が1330例（動詞399種）、訳文が1411例（動詞411種）とその差は100例程度であった。助詞“过”の使用頻度は、著作も訳文もさほど変わらない。

実際どのような動詞に付着して用いられたかについては、使用頻度を見る限りでは著作と訳文とでそれほど大きな差異はなく、また、1例のみしか使用されない動詞が多くを占める。使用回数が2桁を越すものはそれぞれ次の通り。

表 2

	著作		訳文	
	動詞	数	動詞	数
1	说	139	说	222
2	见	137	见	109
3	看	69	有	82
4	有	62	做	48
5	做	58	听到	34
6	读	38	看	30
7	吃	21	吃	29
8	听到	20	读	28
9	看见	18	受	25
10	发表	17	讲	24
11	写	17	到	21
12	出	14	想	15
13	到	14	问	15
14	受	14	住	14
15	研究	14	用	14
16	译	13	喝	13
17	听	12	听	13
18	开	11	经历	10
19	讲	11		
20	用	11		
21	问	10		

特筆すべきなのは、状態性が強いであろう動詞“有”の使用頻度が著作・訳文共にかなり多いことである。また、これら“有过”の例は、共に時間を表す語、否定詞などを伴うことがほ

とんどである。⁵⁷⁾

“有”

- (45) 阿末虽然被宠爱，比较起来却要算不喜欢母亲的，有时从伊有些歪缠，母亲便烈火一般发怒，曾经有过抓起火筷，一径追到店面外边的事。（〈阿末的死〉《訳文：2》1923年⁵⁸⁾，p. 40）
- (46) 而且最奇特的是，这大概是只有在俄国才会出现的，——不久之后，他就又和痛打了他的朋友混在一起，大家扳谈，仿佛全没有过什么事，他这一面，也好像毫未受过侮辱似的。（〈死魂灵〉《訳文：7》）1935年，p. 79）
- (47) 记得先前也曾有过一回，但那时提倡的，是满清王公大臣，现在却是民国的教育家，位分略有不同。（〈三十七〉《热风》《鲁迅全集（以下《全集》）：1》1918年，p. 309）

“有”の他，清代以前に使用が見られた“想”についても，著作で5例，訳文で15例と，比較的多く用いられている。“想到”“想起”などの例も含めれば，魯迅の作品中で用いられた「状態性動詞＋“过”」の用例のほとんどの動詞が“有”及び“想”であったことになる。

“想”

- (48) 你没有想过的事，谁也没有想听呢。（〈一个青年的梦〉《訳文：1》1922年，p.331）
- (49) 到最后，我再说一遍罢：日本人的生活改造，倘不首先对于从肉向灵的这根本的问题，彻底地想过，是不行的！（〈出了象牙之塔〉《訳文：2》1924年，p.359）
- (50) 他想到这里，忽然从床上跳起来了。以先他早已想过，须得捞几文稿费维持生活了；（〈幸福的家庭〉《彷徨》《全集：2》1924年，p.35）
- (51) 但仅印十来幅图，认真地想过几回的人却也有的，不过自己不多说。（〈论翻印木刻〉《南腔北调》《全集：4》1933年，p.606）
- （以上下線部・太字筆者）

魯迅の作品中に用いられた「状態性動詞＋“过”」は以下のとおり。以下，著作と訳文を比較して述べる。

太字は存在を表す動詞，イタリック体は形容詞，その他は心理・生理状態を表す動詞及び認知動詞である。“过”全体の使用数から見ると，「状態性動詞＋“过”」の使用例は著作109例（動詞30種），訳文148例（動詞33種）と少ない。

57) 今回は“未曾有过”の例を“有過”としてとったことも影響している。

58) 魯迅の翻訳としての発表年。

表 3

	著作		訳文	
	動詞	数	動詞	数
1	有	61	有	82
2	想到	6	想	15
3	反对	6	想到	7
4	想	5	存在	6
5	想做	2	爱	5
6	高兴	2	饿	3
7	相信	2	思索	2
8	反省	2	感到	2
9	无聊	2	苦	2
10	感慨	1	在	1
11	相爱	1	感受	1
12	猜想	1	想起	1
13	愤慨	1	思量	1
14	感动	1	恋	1
15	浩叹	1	感着	1
16	动摇	1	高兴	1
17	满足	1	怀//疑	1
18	推想	1	反省	1
19	赞同	1	恋爱	1
20	细想	1	迷	1
21	注意	1	觉到	1
22	反对青年读书 ⁵⁹⁾	1	豫感	1
23	设想	1	嗜爱	1
24	想像	1	怜悯	1
25	知道	1	忘记	1
26	赏识	1	紧张	1
27	饿	1	梦想	1
28	感	1	忏悔	1
29	怀疑	1	打算	1
30	认识	1	忧愁	1
31			牟青	1
32			美丽	1
33			暖和	1
計		109		148

59) “反对青年读书过”：このような「V+O+“过”」の例は、著作・訳文問わずいくつか見られる。

(1) 在她那结识了许多男人，多到在记忆里，他们的眼睛的颜色，头发的颜色，或者连姓名也分不清了

この結果からは訳文には存在を表す動詞に“过”がついて経験を表す例が数的にも種類のにも比較的多いといえる。以下、実際の用例を見ていく。

“存在”

- (52) 那最坏的是，他其实就没有存在着，而且也没有存在过。（〈小约翰〉《訳文：3》1928年，p. 69）
- (53) 反之，在历史中看不见意义的人们，则即使他怎么善良，也不过是毫不将人类的特状提高一点的，单是曾经存在过了的利己主义者，在他死后，是决没有什么东西留下的罢。（〈艺术论〉《訳文：4》1929年，p. 274）
- (54) 托尔斯泰就这样地暗示着空想底的，这世上未曾存在过的黄金时代，然而这是空想，他自己却分明知道的。（〈文艺与批评〉《訳文：4》1928年，p. 317）
- (55) 加以这样的工场产业，这样的交通路线，都未曾有过，而且在现今的形态上那样的资本主义，也未曾存在过的缘故。（〈文艺与批评〉《訳文：4》1928年，p. 325）
- (56) 例如，在十七世纪的法国，曾经存在过的关系，便是这，在那时，资产阶级很喜欢模仿贵族阶级，虽然不能说是非常地成功底的。（〈艺术论〉《訳文：5》1930年，p. 166）
- (57) 一个泼刺的男孩和一个漂亮的女孩，或者简直是两个男孩和两个女孩，当然，三个也可以，由此给大家知道知道，他的确生活过，存在过，至少是并不像一个幽灵或者影子似的在地上逛荡了一下——而且他对于祖国，因此也用不着惭愧了。（〈死魂灵〉《訳文：7》1936年，p. 280）

の辛苦而很难忍受的一生中，华理亚对谁也从来不能说出“可念的，可爱的人”的话过（〈毁灭〉《訳文：5》1931年，p. 315）

- (2) 实实在在，一生一世，就没有弄得这么精光过。（〈死魂灵〉《訳文：7》1935年，p. 72）
- (3) 革命的劳动者还知道劳动运动的历史，并且他将教导我们说，还永没有一个革命党曾带着这种解决来到大众的面前过。（〈无产阶级革命文学论〉《译文补编》《訳文：8》1930年，p. 424）
- (4) ……然而我到现在终于没有和赛会发生关系过。（〈五猖会〉《朝花夕拾》《全集：2》1926年，p. 262）
- (5) 我记得曾有许多人絮絮叨叨，主张禁止过，后来也确有明文禁止了。（〈谚语〉《南腔北调》《全集：4卷》1933年，p. 543）
- (6) 可见是承认了要能作文，该多看中国书；二，“……我以为倘要弄旧的呢，倒不如姑且靠着张之洞的《书目答问》去摸门径去。”就知道没有反对青年读古书过。（〈答“兼示”〉《准风月谈》《全集：5》1933年，p. 359）
- (7) 我们的将出版的译本和你的已出版的译本，很相类似，而我曾将译稿寄给北新书局过，你有见到的可能，（〈关于《关于红笑》〉《集外集》《全集：7》1929年，p. 125）

これらは魯迅の方言の影響と考えられるだろう。筆者が数名の上海出身者に調査を行ったところ、老年代の上海語話者はこのような言い方をするとのことであった。伍和忠《“尝试”、“经验”表达手段论》（社会科学文献出版社，2005年）では，“V过O”“VO过”の語順について，“了”や“着”の変遷を引き合いに出し、「虚化の過程に存在する問題」とし、さらにいくらかの先行研究を挙げた上で、「VO过」は現在の方言やシナ・チベット語族の言語の中にも見られるとしている。（pp.215-218）

“在”

- (58) 是一个粗心浮气的朋友，恶魔似的强横，凡世界上所有的事，他都做过，在过守卫本部，受过许多点钟的禁锢。(《死魂灵》《訳文：7》1935年，p.194)

これらはほとんどが“曾经”などの時間詞と共起するか，否定形式である。また，訳文中には“爱”を用いた例も比較的多く見られる。

“爱”

- (59) 我爱过你们了，并且永远爱你们。(《与幼小者》《现代日本小说集》《訳文：2》1923年，p.36)
- (60) “人生是可悲的。我自有生以来，只有过一回恋爱。只记得爱过一个女人。这就是我的妻。……(《西班牙剧坛的将星》《壁下译丛》《訳文：4》1925年，p.47)

また，変わった例としては，アスペクト“着”に更に“过”を付けた例も見られた。⁶⁰⁾

- (61) 当他接着拿起名单来，一看那些确是活着过，操劳过，耕作过，喝过酒，拉过车，骗过他的主人，或者也许是简单的老实人的农奴们的名字的时候，就起了一种奇特的不舒服的感觉。(《死魂灵》《訳文：7》1935年，p.136)

訳文ではなく魯迅自身の著作物にも，現在ではほとんど使わない変わった用法がある。認知動詞に“过”を用いた例がそれである。

- (62) 我曾经爱管闲事，知道过许多人，这些人物，都怀着一个大愿。(《病后杂谈》《且介亭杂文》《全集：6》1932年，p.162)
- (63) 但是奇怪，我们又很疏远，例如我，就没有认识过一个捷克人，看见过一本捷克书，前几年到了上海，才在店铺里目睹了捷克的玻璃器。(《呐喊》捷克译本序言)《且介亭杂文》《全集：6》1936年，p.524)

「形容詞＋“过”」の例は著作，翻訳共に見られる。1例を除いて否定形で用いられている。

・訳文

60) CCLコーパスによれば，このような例はアンデルセン童話『風車』の翻訳に1例，“磨坊里曾经活着过的东西，现在仍然活着，并没有因为这件意外而被毁掉。”老舍の《四世同堂》に1例見られる。“他不能，绝对不能，再想死。他以前并没有真的活着过；什么花呀草呀，那才真是象一把沙子，随手儿落出去。”

- (64) 再没有人想到，伊也曾经年青过，美丽过的。（〈疯姑娘〉《现代小说译丛》《訳文：1》1921年，p. 287）
- (65) 克拉拉・札德庚教养院里，从来没有这么暖和过。到处都热，竟好像蒸汽浴场似的。（〈表〉《訳文：6》1935年，p. 389）

・著作

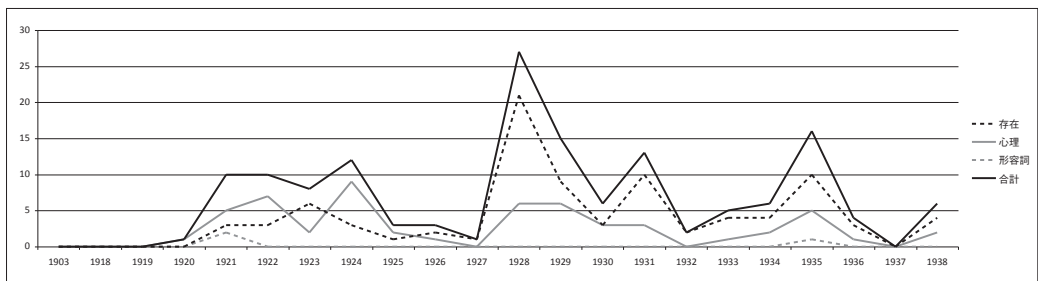
- (66) “唉唉，我从来没有这样的无聊过！”伊想着，猛然间站立起来了，（〈补天〉《故事新编》《全集：2》1922年，p. 345）
- (67) “唉唉，我从来没有这样的无聊过。”伊坐在一座山顶上，两手捧着头，上气不接下气的说。（〈补天〉《故事新编》《全集：2》1922年，p. 351）
- （以上下線部・太字筆者）

これら用例を時間的に見ると以下のようなになる。

表 4

訳文

	1903	1918	1919	1920	1921	1922	1923	1924	1925	1926	1927	1928	1929	1930	1931	1932	1933	1934	1935	1936	1937	1938	合計
存在	0	0	0	0	3	3	6	3	1	2	1	21	9	3	10	2	4	4	10	3	0	4	89
心理	0	0	0	1	5	7	2	9	2	1	0	6	6	3	3	0	1	2	5	1	0	2	56
形容詞	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3
合計	0	0	0	1	10	10	8	12	3	3	1	27	15	6	13	2	5	6	16	4	0	6	148



著作

	1918	1919	1920	1921	1922	1923	1924	1925	1926	1927	1928	1929	1930	1931	1932	1933	1934	1935	1936	合計
存在	5	3	0	0	0	0	0	7	3	4	0	1	1	2	1	5	18	8	3	61
心理	0	1	0	0	0	0	1	6	7	6	3	0	0	1	0	5	7	3	6	46
形容詞	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	5	4	0	0	2	0	1	13	10	10	3	1	1	3	1	10	25	11	9	109



量的な限界もあって、はっきりと言い切ることは難しいが、総合すると全体の傾向として翻訳作品の方が、著作と比べ数年早く「状態性動詞＋“过”」の用法を用いており、存在を表す動詞の種類も多い。また、「認知動詞＋“过”」をはじめ、現在でも助詞“过₂”と結合しにくい動詞にも“过”が用いられている例も考えると、当時、或いは魯迅作品における“过₂”の用法は旧白話時代とも、現在とも異なる使用法をされていた可能性も考えられる。

余 論

以下、「状態性動詞＋“过”」の用法の中で最も多い「“有”＋“过”」について、魯迅の著作・翻訳作品における用法はどのようなものであるか検討したい。

4-3でも触れたように、「状態性動詞＋“过”」の例の中でも著作・訳文共に、「“有”＋“过”」の使用は飛び抜けて多い。しかし著作・訳文共に多く使用が見られることから、これがそれぞれの特徴であるとは言えない。また、著作・訳文ともに「“有”＋“过”」の主体は無生物であることが多く、これら「“有”＋“过”」は所有・所属ではなく、存在を表すことが多い。

- (68) “五六年前，西边的辛锡那台街上，曾经有₂过一件出名的犯罪案子。……（〈思想・山水・人物〉《訳文：3》1928年，p.170）
- (69) 党的指导方针，是以前也曾₂有₂过，现今也还存在。（〈关于对文艺的党的政策〉《文艺政策》《訳文：5》1928年，p.43）
- (70) 假如先前未₂曾₂有₂过这样的一篇诗，现在的新诗人用这意思做一首白话诗，到无论什么副刊上去投稿试试罢，我看十分之九是要被编辑者塞进字纸篓去的。（〈门外文谈〉《且介

亭雑文《全集：6》1934年，p.94)

日本語から中国語への翻訳を見てみると、「有」＋“过”は「～がある」「～ことがある」「～ことがあった」などと対応することが多い。

- (71) 解決はついてゐるのです。耶蘇や釋迦を始めいろ／＼の人が既に解決はつけてゐます。しかし人々はまだその解決を實行する力はないのです。⁶¹⁾
 解決也有过的。耶穌釋迦以來，許多人都下過解決。只是人們還沒有實行這解決的力量就是了。（〈一個青年的夢〉《訳文：1》1922年，p.330)
- (72) ある年の春、この池がとくにきれいだつたことがあります。⁶²⁾
 有一年的春天，這池塘曾經有過格外好看的事。（〈春夜の夢〉《愛羅先珂童話集》《訳文：1》1922年，p.477)
- (73) 「君は恋したことがある？」「恋したことはないけど、鯉をたべたことがあるよ。」⁶³⁾
 “你有過戀愛么？”“並沒有有過戀愛，但曾經吃過鯉兒。”（〈小雞的悲劇〉《愛羅先珂童話集》《訳文：1》1931年，p.539）⁶⁴⁾
- (74) かういふ話がある。⁶⁵⁾
曾經有過這樣的故事：（〈思想・山水・人物〉《訳文：3》1928年，p.173)

しかし、単に、“有”だけで訳していることもある。

- (75) かういふことがありましたつけ、⁶⁶⁾
曾經有一件這樣的事—（〈思想・山水・人物〉《訳文：3》p.235)
- (76) しかし自分でも満足する程、鼻が短く見えた事は、是までに唯の一度もない。⁶⁷⁾
 但看見鼻子較短到自己滿意的程度的事，是從來沒有的。（〈鼻子〉《現代日本小說集》《訳文：2》p.84)
 （以上下線部・太字筆者）

61) 武者小路実篤「或る青年の夢」『武者小路実篤全集：3』（藝術社，1923年，p.295）

62) ヴァスィリー・ヤコヴレヴィチ・エロシェンコ（Василий Яковлевич Ерошенко）「春の夜の夢」『エロシェンコ全集：1』（みすず書房，1959年，p.76）

63) ヴァスィリー・ヤコヴレヴィチ・エロシェンコ（Василий Яковлевич Ерошенко）「ひよこの悲劇」『エロシェンコ全集：2』（みすず書房，1959年，p.114）

64) この例では「恋したことはない」が“沒有有過戀愛”と訳されており，“有”が「する」という動詞扱いされている。

65) 鶴見祐輔『思想・山水・人物』（大日本雄辯社，1924年，p.173）

66) 鶴見祐輔『思想・山水・人物』（大日本雄辯社，1924年，p.287）

67) 芥川龍之介「鼻」『芥川龍之介全集：1』（岩波書店，1927年，p.19）

これらの例から見るに、伍和忠（2005）などで行われているように、“曾”と“过”の共起が「経験義を一層突出させる」という説明は、魯迅の「有」＋“过”の用法に関しては些か言いにくいように思われる。また、翻訳表現が全て原文の形と一致するわけではなく、更に魯迅の著作と訳文における使用に意味上の差異も見られないため、魯迅の「有」＋“过”体が外国語の表現方法に影響されて現れたとは現在の段階では言えない。

また、“有”は“想”と共に、“过”と結びつく用例が清代にも見られることから、他の状態性動詞とは異なる分類をした方がよいと考えられる。孔令達（1985）のように動詞の「反復性」も用法の推移に関わる問題なのかもしれない。

おわりに

本稿では、状態性の動詞や形容詞を伴う“过2”の用例は20世紀以降多用されるようになったという仮説を立て、その用法変遷に外国語の影響があった可能性を探った。

結果、以下のことがわかった。まず、19世紀以前の用法について。

- 1) 19世紀以前には“有”“想”などに若干の使用が見られる以外、「状態性動詞＋“过”」の例がほとんど見られない。また、「形容詞＋助詞“过”」の例も見当たらない。
- 2) 19世紀以前、英語の現在完了形と中国語の「V＋“过”」は対応されることが多かったが、これら資料の中にもやはり状態性動詞と結びついた「V＋“过”」の例はほとんど無い。
- 3) 19世紀以前の資料において、英語の構造が中国語の「V＋“过”」の構造に何らかの影響を与えた痕跡は見ることができない。

次に、魯迅で用いられている助詞“过”の用法について。

- 1) 訳文、著作共に使用頻度が高い動詞はほとんど同じである。
- 2) 動作性動詞ではない“有”や“想”が“过”を伴う例がかなり多い。
- 3) 現在でも成立しにくい「認知動詞＋“过”」「存在動詞＋“过”」の例がいくらか見られる。
- 4) 「状態性動詞＋“过”」及び「形容詞＋“过”」の用例数は著作、訳文を比べて大きな差異はなく、また、著作、訳文共に“有”“想”を動詞に持つものが突出して多い。
- 5) 訳文の方が比較的早い時期に「状態性動詞＋“过”」の用法を用いており、また、訳文の方が存在を表す動詞と結合しやすい傾向にある。
- 6) 魯迅の作品から、“过2”の変遷に外来要素が関係していたという明らかな結果は見られなかったが、当時、或いは魯迅個人における“过2”の用法は旧白話時代とも、現在とも異なる使用法をされていた可能性が考えられる。

今回の研究には問題点も多く残っている。まず、方言の問題である。3-1で近代以前の例として“想过”を用いた例を挙げたが、《九尾龟》は呉語の小説であり、《野叟曝言》の作者、夏敬渠は江蘇の人間とされている。《二十年目睹之怪现状》についても、作者吳趸人は元々広

東の人で、後に上海で活躍した。これを見ると、当時このような“过”の用法は方言であった可能性も出てくる。《儿女英雄传》のような他の地方の作者にも“想过”の用例は見られるが、方言が“过”の用法拡大に影響した可能性も考慮しなければならない。また、魯迅の用法の中に見られた“VO过”の用法については、本稿では除外して考えたが、これを“过”の変遷に大きな影響を与えたとする先行研究が近年盛んに行われている。⁶⁸⁾今回は外来影響として外国語を念頭に用法を検討したが、“过”の変遷については、方言の影響も考慮する必要があるであろう。

今回状態性動詞として分類した“想”や“有”は、“过”と結びつく用例が清代以前にも見られることから、今後研究を進める上では他の状態性動詞とは異なる分類をした方がよい。“过”のこのような用法が方言だとしても、他の状態性動詞や形容詞を伴った“过”はやはり姿が見られないからである。しかし、これは“想”や“有”が他の状態性動詞とは異なる性質を持っている、とするのが正しいのか、或いは「経験義」の定義の問題なのか、検討する余地があるであろう。例えば、“有过了”は“有了”とどう違うのかという点についてもきちんと定義しておく必要がある。

本研究の今後の可能性については次のことが考えられる。まず、魯迅個人の用法が近代とも現代とも異なるものであった可能性。この可能性にはもちろん彼自身の方言の影響も考えられるが、1910年代から1930年代当時、新たな中国語を創りだそうとした潮流の中にあつて、魯迅が翻訳の中に「新たな表現」を模索したことはよく知られている⁶⁹⁾。更に魯迅の翻訳作品のほ

68) 楊永龍〈明代以前の“VO过”例〉《語文研究：第4期》(2001年, CNKI中国知网による)

崔山佳〈近代汉语中的“VO过”、“V得O过”和“V得O着”〉《张家口职业技术学院学报：第14卷第4期》(2001年, CNKI中国知网による)

伍和忠(2005)

など

69) 魯迅〈關於翻譯的通信〉《二心集》(合衆書店, 1932(民国21)年, 初出1932年6月《文學月報：第1卷第1號》, p. 250)に以下のような記述がある。

這樣的譯本，不但在輸入新的內容，也在輸入新的表現法。中國的文或話，法子實在太不精密了，作文的秘訣，是在避去熟字，刪掉虛字，就是好文章（中略），這語法的不精密，就在證明思路的不精密，換一句話，就是腦筋有些胡塗（中略）。要醫這病，我以為只好陸續喫一點苦，裝進異樣的句法去，古的，外省府的，外國的，後來便可以據為己有。這並不是空想的事情。遠的例子，如日本，他們的文章裏，歐化的語法是極平常了，（以下略）魯迅 一九三一，十二，二八。

そうした翻訳書は、新しい内容を輸入するにとどまらず、新しい表現法をも輸入しているのです。中国の文章や言葉は、じつさい規則があまりにも粗雑すぎます。作文の秘訣は、よく使われる文字は避け、虚字は削ることで、そうすればよい文章だというわけです（中略）、こうした語法の粗雑さは思考の粗雑さを示すもので、換言すれば、頭脳がいささかぼけています。この病いを治すには、しばらく苦勞をつづけて、古いもの、よその土地のもの、外国のものなど、違った句法をつめこむしかなく、やがてそれを自分のものにすればよい、とわたしは思います。これは決して空想ではありません。遠い例では、たとえば日本ですが、彼らの文章のなかでは欧化された語法はあたりまえのことで、（以下略）魯迅 一九三一，十二，二八

とんどが日本語、或いは日本語経由であること（今回使用した翻訳作品全251作品中、日本語作品が113、重訳底本を日本語とする作品が71、重訳底本を日本語・ドイツ語とする作品が2、重訳底本を日本語・ドイツ語・英語とする作品が6、計192作品が日本語経由であった⁷⁰⁾）を考慮すると、彼の“过”の使用法には方言の可能性だけでなく、外国語、特に日本語の影響があったと考える事は突飛なことでもないであろう。更に、日本語という観点から見れば、近代日本の過去標示「タ」が翻訳の影響とする先行研究があるが⁷¹⁾、もし日本語の「～タコトガアル」形も翻訳の影響で明治時代以降に広く使用されるようになったのだとすると、この変遷を辿ることも中国語の“过2”について研究する上で重要な要素となる可能性はある。今後の課題にしたい。

参考文献目録

辞書など

1. 『中日大辞典：増訂第2版』（愛知大学・大修館書店、1987年）
2. 『現代汉语动词大辞典』（北京语言学院出版社、1994年）
3. 樽本照雄 編『新編増補清末民初小説目録』（齋魯書社出版、2002年、1997年（日本））
4. 『日本国語大辞典：第二版』（小学館、2001年）
5. 刘月华・潘文娣・故鞅《实用现代汉语语法（増訂本）》（商务印书馆、2001年）
6. 呂叔湘 主編（牛島徳次・菱沼透 監訳）『中国語文法用例辞典—《現代漢語八百詞増訂本》日本語版』（東方書店、2003年）
7. 『現代汉语词典：第5版』（商務印書館、2005年）

単行本

・日本語

1. 張秀「中国語動詞の『アスペクト』と『テンス』の体系」『中国語言語学情報2：テンスとアスペクトI』于康・張勤編、中川祐三・張勤訳、好文出版、2001年、pp.1-38（原文：〈汉语动词的“体”和“时制”系统〉《语法论集》第2集，中华书局，1957）
2. 太田辰夫『中国語歴史文法』（朋友書店、1981年（1958年江南書院版発行））
3. 香坂順一『白話語彙の研究』（光生館、1983年）
4. C. E. ヤーホントフ（Сергей Евгеньевич Яхонтов）著・橋本萬太郎訳『中国語動詞の研究』（白帝社、1987年）
5. 町田健『日本語の時制とアスペクト』（アルク、1989年）
6. 孔令達「言語成分の同一性から見た助詞『过』の帰属問題」『中国語言語学情報4：テンスとアスペクト3』于康ほか編、好文出版、2001年、pp.231-246（原文：〈从语言单位的同一性看助词“过”的分合问题〉《语法研究和探索（八）》商務印書館、1997年）

（以上日本語訳は「通訳にかんする通信」『二心集・南腔北調集（魯迅全集：6）』（学習研究社、吉田富夫訳、1985（昭和60）年4月25日、pp.213-214）によるもの）

70) 重訳底本不明なものが多く、魯迅がこれらの他に重訳底本を明らかにしているのはドイツ語からの重訳が19作品あるのみであることを考えると、魯迅の翻訳はほとんどが日本語からのものであると考えてよいだろう。

71) 柳父（2004）ほか

7. 朱繼征『中国語の動相』（白帝社，2000年）
8. 柳父章『近代日本語の思想：翻訳文体成立事情』（法政大学出版局，2004年）
9. 劉綺紋『中国語のアスペクトとモダリティ』（遊文舎，2006年）
10. 日本語記述文法研究会『現代日本語文法：3』（くろしお出版，2007年）

・中国語

1. 王力《中国语法理论（下册）》（中华书局出版社，1944年）
2. 趙元任《中國話的文法》（中文大學出版社、台灣學生書局，1980年）
3. 伍和忠《“尝试”、“经验”表达手段论》（社会科学文献出版社，2005年）

論文

・日本語

1. 三宅登之「周縁的“过2”について」『中国語：11月号』（内山書店，1999年，pp.27-32）
2. 朴鍾漢「認知文法による現代中国語多義語の研究」『中央大学論集：第21号』（遠藤雅裕訳，中央大学，2000年，pp.21-41）
3. 藤森弘子「談話における『コトガアル』の意味と用法」『留学生日本語教育センター論集:22』（東京外国語大学，2000年，pp.33-47）

・中国語

1. 孔令达〈动态助词“过”和动词的类〉《安徽师大学报（哲学社会科学版）》（1985年第三期，pp. 104-110）（CNKI中国知网による）
2. 木霁弘〈“过”字虚化的历史考察〉《思想战线》（1989年第2期，总86期，云南人民出版社，1989年，pp. 37-42）
3. 杨永龙〈明代以前的“V0过”例〉《语文研究：第4期》（2001年，CNKI中国知网による）
4. 崔山佳〈近代汉语中的“V0过”、“V得O过”和“V得O着”〉《张家口职业技术学院学报：第14卷第4期》（2001年，CNKI中国知网による）
5. 林新年〈试析唐宋时期的“过”语法化进程迟缓的原因〉《语言科学：第3卷第6期》（2004年，pp. 42-50）（CNKI中国知网による）
6. 伍和忠〈汉语表“体”助词研究述要〉《广西师范学院学报（哲学社会科学版）》（第26卷第3期，2005年，广西师范学院，pp. 104-110）
7. 王娇〈动态助词“过”的语法化过程〉《现代语文（语言研究版）》（2008年9期，曲阜师范大学，2008年，pp.34-35）
8. 李凌燕〈新闻叙事中“着”、“了”、“过”的使用情况——兼谈新闻话语的主观性〉《修辞学习》（2009年第5期（总155期），复旦大学，2009年，pp.20-27）

引用資料

1. Robert Morrison “*DIALOGUES AND DETACHES SENTENCES IN THE CHINESE LANGUAGE*（《中文會話及凡例》）”（Honorable East India Company’s Press, 1816年）
2. S.W.Williams（維三畏鑒定）“*AN ENGLISH AND CHINESE VOCABULARY IN THE COURT DIALECT*（《英華韻府歷階》）”（Macao, PRINTED AT THE OFFICE OF THE CHINESE REPOSIRORY（香山書院梓行），1844年）
3. W.H.Medhurst “*ENGLISH AND CHINESE DICTIONARY*”（Shanghai, Printed at The Mission press., 1847年）
4. Joseph Edkins “*A grammar of the Chinese colloquial language, commonly called the Mandarin dialect*”（Shanghai, LONDON MISSION PRESS, 1857年）
5. 曲肱軒主人『開化のはなし：上下巻』（早稲田大学古典籍データベース，http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/html/wo01/wo01_03483/index.html）
6. Kwong Ki Chiu（鄭其照）“*AN ENGLISH AND CHINESE DICTIONARY COMPILED FROM DIFERENT AUTHORS AND ENLARGED BY THE ADDITION OF THE LAST FOUR PARTS.*”

- (《字典集成》)” (Hongkong, THE CHINESE PRINTING AND PUBLISHING COMPANY, 1875年)
7. 『総譯亞細亞言語集 支那官話部』(広部精 訳、青山清吉蔵版、明治15 (1882) 年、関西大学近代漢語文献データベース, <http://www2.csac.kansai-u.ac.jp:8080/library/userservlet>)
 8. W. LOBSCHIED “AN ENGLISH AND CHINESE DICTIONARY” ((羅不存徳原著、井上哲次郎訂増、『訂増英華字典』藤本氏蔵版) TOKYO PUBLISHED BY IFUJIMOTO, 1883年)
 9. C.W.Mateer “A course of Mandarin lessons, based on idiom. (《官話類編》)” (Shanghai, American Presbyterian Mission Press., 1906 (初版1892年))
 10. 武者小路実篤「或る青年の夢」『武者小路実篤全集：3』(藝術社, 1923年, p.295)
 11. 鶴見祐輔『思想・山水・人物』(大日本雄辯社, 1924年)
 12. 芥川龍之介「鼻」『芥川龍之介全集：1』(岩波書店, 1927年)
 13. 胡適〈百二十回本《忠义水浒传》序〉《胡适全集》第3卷, 安徽教育出版社, 2003, p. 445 (原文 (1929))
 14. 魯迅〈關於翻譯的通信〉《二心集》(合眾書店, 1932 (民国21) 年)
 15. ヴァスイリー・ヤコヴレヴィチ・エロシェンコ (Василий Яковлевич Ерошенко) 「春の夜の夢」『エロシェンコ全集：1』(みすず書房, 1959年)
 16. ヴァスイリー・ヤコヴレヴィチ・エロシェンコ (Василий Яковлевич Ерошенко) 「ひよこの悲劇」『エロシェンコ全集：2』(みすず書房, 1959年)
 17. [明] 羅貫中《三国演义》(人民文学出版社, 1973年)
 18. 茅盾《子夜》(1933年)(人民文学出版社, 1977年 (1960年北京第3版))
 19. [清] 曹雪芹, 高鹗《红楼梦》(人民文学出版社, 1979年)
 20. [明] 吳承恩《西游记》(人民文学出版社, 1980年)
 21. 魯迅《魯迅全集》1-8卷(全16卷)(人民文学出版社, 1981年)
 22. 魯迅 著, 吉田富夫 訳, 「通訳にかんする通信」『二心集・南腔北調集(魯迅全集：6)』(学習研究社, 1985 (昭和60) 年)
 23. [明] 施耐庵, 羅貫中《水浒传》(江苏古籍出版社, 1989年)
 24. 〈改革开放以来我国出国留学总人数已超过100万人〉《新华网》(2007年02月26日付ニュース記事, 2010年12月15日閲覧, http://news.xinhuanet.com/edu/2007-02/26/content_5775966.htm)
 25. 魯迅《魯迅译文全集》1-8 (全8卷)(福建教育出版社, 2008年)
 26. 《北京大学汉语语言学研究中心语料库》(北京大学汉语语言研究中心, http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/index.jsp)